

科目名	公的扶助論								
科目名(英)	Public assistance theory								
単位数	2		時間数	15		担当者	三谷 茂男		
実施年度	2019		実施時期	後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年								
授業概要	近年、社会的格差が広がっているといわれている。一方、生活保護受給者に対するバッシングがみられるように、生活保護制度の市民の理解は十分といえない現状である。そこで、①貧困のとらえ方、②公的扶助の歴史、③生活保護制度の概要、④その他の低所得者対策などについて学び、現代社会において公的扶助の果たす役割などについて理解を深める。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○					現代の貧困の実態を理解し、貧困の原因を説明できる。			
	○					公的扶助の歴史的展開と貧困理論を説明できる。			
	○					日本の生活保護制度の概要を説明できる。			
	○					低所得者対策の概要を説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	低所得者に対する支援と生活保護制度(中央法規)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	公的扶助の概念				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	貧困・低所得者問題と社会的排除				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	3	公的扶助の歴史①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	4	公的扶助の歴史②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	5	公的扶助の歴史③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	6	生活保護制度の仕組み①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	7	生活保護制度の仕組み②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	8	生活保護制度の仕組み③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	9	生活保護制度の仕組み④				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	10	生活保護の動向				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	11	低所得者対策の概要①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	12	低所得者対策の概要②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	13	生活困窮者自立支援法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	14	生活保護の実施体制と関係機関・団体				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと			
15	生活保護における自立支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)授業の中で振り返りテストを0回程度行う、(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				70%		
	小テスト	◎	○				20%		
	宿題・レポート								
	発表・作品				◎		10%		
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。								

科目名	更生保護						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	16時間	担当者	百枝 孝泰		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	犯罪や非行を犯した者に対して、その再犯を防ぎ、更生させるための施設内教育から社会内教育への移行や実施の手だてや仕組み、支援のあり方等を社会福祉と関連させながら理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	◎	○		◎		更生保護制度の概要を理解する	
	◎	○		◎		更生保護の担い手を理解する	
	◎	○		◎		更生保護制度における関係機関、団体との連携について理解する	
	◎	○		◎		医療観察制度の概要について理解する	
	◎	◎		◎		更生保護の実際と今後の展望について理解する	
テキスト・教材 参考図書	社会福祉士養成講座編集委員会 / 「新・社会福祉士養成講座」20 更生保護制度 / 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	罪を犯した人びとの現状					
	2	更生保護制度の概要(1)					
	3	更生保護制度の概要(2)					
	4	更生保護の担い手について					
	5	関係機関・団体との連携					
	6	医療観察制度の概要					
	7	更生保護の実際と今後の展望					
	8	振り返り(今後の展望と課題)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施する。(2)レポートを1回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎		○		5%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会調査の基礎								
科目名(英)									
単位数	1	時間数	15	担当者	大原朋子				
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年次								
授業概要	社会調査の意義と目的、社会調査の概要に加え、基本的な調査の方法について理解し、福祉現場において、社会的ニーズ、利用者満足度やサービスの評価等を客観的視点で把握する能力を身につけ実践につなげることのできる人材の育成を目標とする。								
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					社会調査の意義と必要性について説明することができる			
	○					社会調査の方法について説明することができる			
		○				量的調査の方法について学び、実践に結び付けることができる			
		○				質的調査の方法について学び、実践に結びつけることができる			
	○					社会調査の倫理と個人情報保護の方法について説明することができる			
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座5「社会調査の基礎 第3版」中央法規出版 ¥2200								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	科目オリエンテーション							
	2	社会調査の概要、種類について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	社会調査の歴史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	量的調査の方法「量的調査の種類と調査票調査について」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	量的調査の方法「尺度、調査票作成における留意点」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	量的調査の方法「調査票作成の方法について」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	量的調査の方法「調査票作成と分析について」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	質的調査の方法「質的調査の種類」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	質的調査の方法「質的調査の実施方法」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	質的調査の方法「分析」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	社会調査の結果と発表の方法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	社会調査における倫理と個人情報保護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	社会調査におけるITの活用				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	まとめ							
15	試験前オリエンテーション								
評価方法	(1)グループワークを実施する(参加態度) (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				80%		
	小テスト								
	宿題・レポート								
	発表・作品		○		◎		20%		
履修上の注意	授業時にはレジメを配布します。								

科目名	社会福祉施設経営論							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	百枝 孝泰	
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年							
授業概要	福祉サービスの中核を担う専門職として必要な福祉サービスを提供する組織やその経営や管理についての基礎的な知識について理解する。							
授業形式	講義:	○		演習:		実習:		
						実技:		
						※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	◎	○		◎		福祉サービスにかかわる組織や団体について説明できる		
	◎	○		◎		福祉サービスの組織と経営に関する基礎的な理論を説明できる		
	○	◎		◎		福祉サービスの管理運営法の基礎を説明できる		
テキスト・教材 参考図書	社会福祉士養成講座編集委員会 / 「新・社会福祉士養成講座」11 福祉サービスの組織と経営 / 中央法規出版							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	福祉サービスの管理運営の方法(1)サービスマネジメント						
	2	福祉サービスの管理運営の方法(2)マーケティング						
	3	福祉サービスの管理運営の方法(3)福祉サービスの質の評価						
	4	福祉サービスの管理運営の方法(4)福祉サービスの質の評価						
	5	福祉サービスの管理運営の方法(5)苦情対応とリスクマネジメント						
	6	福祉サービスの管理運営の方法(6)サービス提供のあり方の方向						
	7	福祉サービスの管理運営の方法(1)人材確保と育成						
	8	福祉サービスの管理運営の方法(2)人事管理						
	9	福祉サービスの管理運営の方法(3)労務管理						
	10	福祉サービスの管理運営の方法(4)人材育成の意義						
	11	福祉サービスの管理運営の方法(5)経営管理と育成						
	12	福祉サービスの管理運営の方法(1)財務管理						
	13	福祉サービスの管理運営の方法(2)会計管理						
	14	福祉サービスの管理運営の方法(3)情報管理						
	15	振り返り						
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	○				80%	
	小テスト	◎	◎		○		5%	
	宿題・レポート	○	○		◎		5%	
	発表・作品				◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	社会福祉行政論								
科目名(英)									
単位数	2		時間数	30		担当者	平田俊浩		
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年								
授業概要	福祉の行財政の実施体制と実際を理解する。また、種々の福祉計画の意義や目的、方法等を理解する。								
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					公的扶助の概念と範囲意義と役割を理解する。			
		○				ホームレスや低所得者を取り巻く社会環境を理解する			
	○					生活保護制度の理念や基本的な運用方法について理解を深める			
	○					生活困窮者自立支援法の制度や実施体制について理解を深める			
○					その他生活困窮者に対する諸制度・サービスについて理解を深める				
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房テキストブック編集委員会 介護福祉士 人間と社会編 吉賀成子監修								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	オリエンテーション～「貧困・生活困窮」の実態を理解する～ VTR視聴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	貧困と格差の現状を知る				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	公的扶助の概念・意義・役割/社会保障との違い				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	公的扶助制度の歴史①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	公的扶助制度の歴史②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	生活保護制度の仕組みと動向①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	生活保護制度の仕組みと動向②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	VTR視聴「健康で文化的な最低限度の生活」扶養義務①				生活保護制度について事前学習をしておくこと			
	9	VTR視聴「健康で文化的な最低限度の生活」扶養義務②				生活保護制度について事前学習をしておくこと			
	10	生活困窮者支援の現場を知る(巡回ふくおか訪問)				福岡市のホームレス支援体制について調べておく			
	11	低所得者対策の概要①～生活困窮者自立支援法～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	低所得者対策の概要②～生活福祉資金貸付制度他～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	生活保護制度の運営実施体制と関係機関・団体(福祉事務所の組織と役割)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	生活困窮者支援現場(抱撲館福岡)見学				福岡市の生活困窮者支援体制について調べておくこと			
15	子どもの貧困の現状と対策～スクールソーシャルワーカーの現場～				スクールソーシャルワークの実際について学ぶ				
評価方法	成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		◎				100%		
	授業感想(小レポート)								
	出席状況								
履修上の注意	5回以上欠課した場合は単位認定(評価)を行わない								

科目名	社会保障論						
科目名(英)	Social Security						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	林 孝和		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	社会保障制度の各論を講義する。医療保険制度、介護保険制度、労働者災害補償保険制度、雇用保険制度、労働問題、生活保護制度、世界の社会保障制度の比較を取り上げる。社会保障に関する新聞記事や最近の出来事を取り上げ、配布資料をもとに講義を進め、視聴覚教材を使用することによりさらに理解を深める。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				医療保険制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				介護保険制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				労働保険制度(労災保険、雇用保険)の内容を理解し、その概要を説明することができる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				生活保護制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				世界の社会保障制度との比較をとおして、我が国の特徴を知り説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央法規出版 社会福祉士養成講座12「社会保障論」第6版 中央法規出版 見て覚える！社会福祉士国試ナビ 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会保障論とは何を学ぶのか 前期の振り返りと後期授業の概観					
	2	医療保険制度の全体像					
	3	健康保険制度と共済制度の概要					
	4	国民健康保険制度の概要					
	5	後期高齢者医療制度の概要					
	6	介護保険制度の全体像					
	7	介護保険制度 被保険者がサービスを利用するプロセス					
	8	介護保険制度 介護保険で利用できる具体的なサービス					
	9	労働者災害補償保険の概要					
	10	雇用保険制度の概要					
	11	労働現場で起きる労働問題にどう対処するのか					
	12	労働保険制度(労災保険、雇用保険)のまとめ					
	13	生活保護制度の概要					
	14	世界の社会保障制度の紹介 我が国との比較					
15	総括・まとめ						
評価方法	(1)定期試験(マークシート、論述等)を実施する。(2)配布資料を提出させる。(3)授業内で発表させる。以下を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品				<input type="radio"/>		10%
提出物				<input type="radio"/>		10%	
履修上の注意	通年で出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	地域福祉論						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	15	担当者	大原朋子		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	福祉現場において、マイクロ・メゾ・マクロの視点を持ち、個人の福祉課題を地域の福祉課題と捉えコミュニティソーシャルワークの実践につなげることのできる人材の育成を目標とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					地域福祉の発展過程について説明することができる	
		○				地域福祉の主体について学び、福祉教育の必要性と方法についての説明することができる	
	○					地域福祉実践における行政組織の役割について説明することができる	
	○					地域福祉実践における民間組織の役割について説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座9「地域福祉の理論と方法」中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	前期の振り返り					
	2	.ソーシャルサポートネットワーク					
	3	社会資源の活用・調整・開発					
	4	社会資源の活用・調整・開発					
	5	精神障害と地域生活					
	6	地域における福祉ニーズの把握方法と実際					
	7	地域における福祉ニーズの把握方法と実際					
	8	地域における福祉ニーズの把握方法と実際					
	9	地域福祉課題について考える					
	10	地域福祉課題について考える					
	11	地域福祉課題について考える					
	12	地域トータルケアシステムの構築と実際					
	13	災害支援について					
	14	災害支援について					
15	試験前オリエンテーション						
評価方法	(1)グループワークを実施する(参加態度) (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品		○		◎		20%
履修上の注意	授業時にはレジメを配布します。						